

巖基珠
Om Kiju

多様な『春香伝』の世界



林権澤監督『春香伝』アップリンクからDVD発売中

最近日本で韓国の恋愛ドラマがブームですが、苦難を乗り越え愛を達成する典型的な物語の原点には『春香伝』(チニヤンジョン)をあげられるかも知れません。韓国人の中で『春香伝』を知らない人はいませんが、『春香伝』は朝鮮時代の或る時期に(最初に言及した記事は一七五四年)作られた物語で、語り物であるパンソリ『春香歌』を文章化したものです。パンソリは朝鮮時代の庶民文学ですが、残っている作品は五つしかありません。朝鮮の古典作品はパンソリに限らず残っているものは極めてわずかです。その中でも『春香伝』は特別に異本の数が多いことでも特色があります。異本は大きく分けると木版である完板系と京板系になります。完板系は地方で作られたもので、京板系はソウル周辺で作られたものです。20世紀初頭に李海朝という作者が書いた『獄中花』が

あり、もう一つの異本として扱われる場合があります。

その内容を一言で言ってしまうと、青年男女の愛と苦難の物語です。身分の差がある李夢龍(イ・モンニョン)と春香(チニヤン)との恋から物語が始まりますが、父親のソウル帰任で別離せざるを得なくなり、二人は将来を約束し別れます。しかし、新しく赴任した郡守(日本の県に当たる道の下級行政区画である郡の責任者)が春香を自分に仕えさせようとして、春香がそれを拒んだので捕らえられ牢に入れられ拷問されます。しかしそれにもかかわらず、春香は最後まで貞節を守り通し、科挙に合格して暗行御史(身分を隠して地方を巡察する官吏)となつて戻ってきた李夢龍に

ついに助けられて二人が結ばれるという話です。

異本によって大きい差があるのは春香の身分と関係ある部分です。李夢龍は郡守の息子、いわば権力ある両班貴族です。しかし、春香の母は妓生つまり官妓であり、父の方は両班貴族です。朝鮮時代の実際のことならばこのよう

な家柄の娘は官妓になるしか道はありません。身分の高い人との結婚は勿論、郡守の命を拒むことも、貞節を守ることも許されない立場です。ところが、物語はそういう設定にはなっていない。京板系では、春香が李夢龍と初めて出会い愛を育むところまでは妓生として描かれています。新しい郡守が赴任した時はすでに代婢贖身して妓生ではないことになっています。郡守の命を拒むことも、貞節を守ることもできる身分にしているわけです。つまり、現実の制度を考慮して矛盾がないように書いてあります。一方、完板系は始めから最後まで現実的な身分は妓生なのに春香の意識だけは妓生ではないように描かれており、それによって作品にはあちこちに矛盾が生じています。

例として、二人が会って結ばれる夜の場面を取りあげましょう。そこで春香が「不志記」という私的な婚約文書

を求めるといふところが問題になります。映像化された『春香伝』の中には春香の白いチマ(スカート)に李夢龍が筆で不志記を書く場面があります。不志記というのは朝鮮時代の妓生が気に入った男性に要求するもので、春香が李夢龍に不志記を要求するとい

うのは春香自身が妓生として行動していることになり。京板系では春香が李夢龍に不志記を要求しますが、完板系では要求しません。京板系の春香は単純に妓生らしく行動していますが、完板系の春香は妓生なのに妓生らしく行動はとらず純粋な恋愛を求めているように行動しています。ところが、その後、二人の初夜に関する描写を見ると、京板系より完板系の春香の方が妓生らしく(?)大胆に行動しています。

以上のような春香の人物設定の差は『春香伝』をどのような物語として読むかということまで影響を与えると思

います。京板系は妓生だった春香が李夢龍に会った後、両班貴族の庶子として李夢龍との約束を守り「烈女不事二夫」を成し遂げる物語として読めます。「烈女不事二夫」というのは朝鮮時代の両班貴族女性に強調された徳目のことで、男性がしかるべき「忠臣不事二君」と対になるものです。しかし、完板系では始めから最後まで春香の性格及び行動が妓生だったり妓生ではなかつたりする不一致が見られます。不一致というのはどこ

どころ朝鮮時代の作品として先進的に見える部分が見えつつあるといふことです。つまり、完板系は春香が妓生としての自分の身分に葛藤しているところを李夢龍と出会い、身分上昇に成功した物語としても読めます。それに、彼女

が守る「烈女不事二夫」も京板系と変わらぬが、それを守った意味は両班貴族女性だけの徳目を妓生も守ることができるといふ一種の変った形の挑戦としても読めます。

なぜ『春香伝』にはこうした異本が生じたのでしょうか。まず考えられるのはパンソリという語り物ともなっているといふことです。パンソリは一定の台本を忠実に演じる

といふより、演じるたびに細部を自由に変える可能性を持っているからです。もつ

つには、語り物を文字に定着させる過程の筆者と読者層の差が考えられます。京板系の普及がソウル中心だったとい

うのは文字化した筆者も読者層も中央の人々であるとい

うことであり、完板系が全羅道というソウルから遠い地方で作られ普及したというのは

中央の政治から排除された人々が物語定着の担い手であ

った可能性が高いといふこと

です。ただしどちらの場合でも権力者の横暴に抵抗した個人

の愛情が最後に成就するとい

う内容では共通している事を考えると、この物語は、発

生自体がそれほど古くはなく

旧時代において新しい思想が芽生えだした過渡期の産物であ

ったことが推測されます。とはいってもまだ古い時代の思想に全面的に対決する思想

を生み出す段階には至ってはい

なかつたため、どの物語の構成でも首尾が一貫せず古

くはなかつたことが見られるので

はないかと思われ。数少ない朝鮮の古典の中

でも『春香伝』は近代に入っ

ても注目され有名になり、小説として書き変え

られる他にも、唱劇、演劇

漫画、映画など何度も新たな形で登場しています。特に

日本の支配が始まってからは

日本人の間でも朝鮮固有の代

表的な物語として有名になり

ました。その背景には権力に

抵抗する個人を扱った内容に

当時の朝鮮人の思いが重なり

合い朝鮮固有の物語として強

調され紹介されたことが考え

られます。日本ではかなり早

くから翻案や演劇で『春香伝』

が紹介されています。最近

では林権澤監督の映画が日本

で公開されたのも記憶に新

しいところです。次のホーム

ページを参考にしてください。

<http://www.hanbok.jp/dam/>

(筆者=専修大学助教授)

愛書狂

「中村うさぎに癒されている」という人がそんなにいるとは思わなかった。不要な洋服や雑貨を年中買い込んでしまふ彼女らは、中村うさぎを

読むと「私の病気はまだましだ」と思つて深く安堵するのだ。さうである。面白い物にあまり興味がなく、衝動買いもめ

つたにしない私には、その気持ちさがさっぱりわからなかつた。唯一私が衝動買いするのは本だけ、古書をコレクシ

ョンするほどの「愛書狂」ではないから、後悔するほどの経験もなかつたのである。ところが先日、大枚十万円を

予期せぬものに投資してしまつた。冬物のパーゲンセル

でもやっていたいかと立ち寄つた百貨店で、古本市をやつ

ていたのがいけなかつた。たまたま初日で、レジには長い

列。目についた古書を三冊ばかり買つて精算をしていると

隣のレジで中年女性が店員相手に交渉している。「いま手

持ちが足りないの。これだけお取り置きしておいていただ

けないから」。ちょっと待

つて。そんなズルが許されるわけ? 見れば近世文学の

専門書が優に五十冊はある。あ、きたね。なんとなくム

ツとした私は会場をもう一回りし、古い雑誌の山を見つけた。一冊平均四千元。高いの

か安いのか見当もつかないが、まあ安くはない。しかし、私は買ってしまった。「お取

り置きババア」に対向すべく銀行に行つてキャッシュを下

ろし、一千、一万円の古雑誌を箱に一杯分。万札を数える

店員の目が心なしに「ババアやねえの」といつているような気がする。これでまた新しい

コートを買ひ損ね、部屋には要らん紙が増えた。問題の箱はまだ開けていない。開け

なくても困らないような雑誌なのである。服と本を同じ店で

売らないで欲しいよ。(洗)

知られざる青春時代

「地図を創る旅 青年団と私の履歴書」

平田オリザ著



村上春樹の出世作『羊をめぐる冒険』の文中にしばしば登場するICUのD館ラウンジにて、その劇団は、弱々しい産声を上げた。一九八二年のことだった。そしてその翌年、「ペンギン村」と呼ばれる不思議な一軒家に住んでいた私は、ワンダーフォーゲル部の仲間と処女作『海神』の旗揚げ公演を行なうにあたり、国際基督教大学の学内新聞に、次のような文章を書き記す。

「寺山修司が死んだ。漱石の死が、明治の終わりを示し、芥川が、大正の終わりを示すなら、この劇詩人の死もまた、一つの長い時代の終わりを示すだろう。私たちが青年団は、この時代の終わりのときに、新たな船出をはじめ、新しいことを誇りたい。」

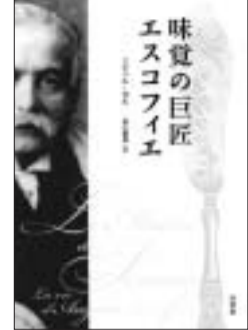
手ケットぴあが本格的に営業を開始し、演劇が消費社会のなかに本格的に組み込まれていった時代。『小劇場ブーム』が加速していく80年代にあつて、私は、韓国の延世大学への留学を選ぶ。

本書は、『東京ノート』で第二十九回岸田國士戯曲賞を受賞し、演劇界はもとより、市民運動を続けながら桜美林大学で教鞭をとるな

天才料理人の生涯

「味覚の巨匠 エスコフィエ」

ミシェル・ガルル著



何千もの創作料理をあみだし、料理を芸術の域にまで高めた男、近代フランス料理を開拓し、近代的なレストランの礎を築いて、いまなお「世界中の料理長の師」と尊ばれる天才料理人の生涯。

南仏の小さな村の名もない蹄鉄工の息子に生まれたオーギュスト・エスコフィエは、モンテ・カルロのグランド・ホテルの料理長となり、そこでセザール・リッツと出会う。総支配人リッツと料理長エスコフィエのコンビは、ロンドンのホテル・サヴォイ、カールトン・ホテル、パリのホテル・リッツといったホテルで、次々に大成功をおさめ、その後のフランス料理の歴史に一大変革をもたらす。彼は料理を簡素化し、メニューの中にコース料理を導入したりして、女性にも愛される料理を確立した偉大なシェフとしてフランス料理の歴史に燦然と輝く人物である。

「新しい料理の発見は、人類にとって一つの惑星の発見以上のものである」というフリー・サヴァラの格言は、エスコフィエの座右の銘であった。彼は顧客に食卓の喜びを与え、顧客は彼を料理の巨匠と呼んだ。エスコフィエはこう記している、「献立はなによりもま

音楽史の主体を問う

「音楽史の基礎概念」

カール・ダールハウズ著



音楽史はこれまでのところ、作曲家の歴史にしろ、あるいはジャンルや形式の歴史にしろ、たといは「ヴァーグナーの『指環』は十九世紀の傑出した作品のひとつである」という具合に、音楽的事実を年譜的に記述するのが一般的であった。著者が本書で意図しているのは、そのような「物語的な歴史」ではなく、音楽を対象の中心にすえながらも、音楽だけの考察にとどまらない音楽学的な歴史記述がいかに可能か、という方法的な考察である。

したがって本書においても、歴史理論との関連でヘーゲル、マルクス、ニーチェをはじめ、ブルクハルト、ドイゼン、そしてウェーバー、ディルタイ、アドルノ、ガーターナーなどにしばしば言及し、その後の活躍もめざましい著者による待望の自伝エッセイ。平田オリザとその劇団「青年団」が名をなす前の、十年間の活動を記す履歴書となっている。

酒や麻雀の日々、韓国軍の基地に潜入して怒られた話、マラソン大会への連続入賞にかけた情熱、アゴラ劇場支配人としての借金苦問題、ソウル経由ヨーロッパ行の新婚旅行……著者の意外な一面を紹介する、知られざる青春時代のエピソードも軽快だ。「なぜ演劇をやめるのか?」という問いに向き合い、現代口語演劇を完成させてゆく奮闘ぶりが活写されている。

四六判 二二二頁 定価一八九〇円(本体一八〇〇円)4月上旬発売

大ベストセラー恋愛小説

【白水Uブックス146】「真珠の耳飾りの少女」

トレイシー・シュヴァリエ[作]



【映画化・原作本】

色彩と構図に豊かな感性をもっていることに気づき、顔料の調合を任せ、天才画家の絵画に心服するフリートは、旦那様への思いを募らせ、二人の親密さも徐々に増していく。そして、フェルメールがカタリーナの真珠の耳飾りをフリートに着けさせ、モデルとして絵画を描くにいたって、物語は一気にクライマックスへと突き進む……。

十六歳の娘フリートは、画家フェルメールの家の女中になったとき、失明した父の身の回りの世話をしてきた経験を活かし、アトリエの掃除と整頓も任されることになった。

そんなフリートを待っていたのは、波乱含みの人間関係だった。

子だくさんで粗忽なため、アトリエの出入りを禁じられている夫人カタリーナとの確執、気丈で抜け目ない、夫人の実母マリア・ティンスとの駆け引き、フリートを目の敵にし、意地悪ばかりする次女コルネリアとの争い、鼻唄の肉屋の息子ピエールがフリートに寄せる恋慕、フェルメールのバトロンである身分を

木下哲夫訳 新書判 二二八頁 定価九八八円(本体九五〇円)

映画

真珠の耳飾りの少女

GIRL WITH A PEARL EARRING



絵画の静謐な光と影を見事に再現する映像美と、切なくも官能の香り高いドラマが綾なす珠玉の名作が誕生。

出演：スカーレット・ヨハンソン
コリン・ファース
監督：ピーター・ウエーバー

2004年4月、シネスイッチ銀座他全国順次ロードショー
写真提供：ギャガ・コミュニケーションズ

絵画展

読売新聞創刊130周年記念

フェルメール
「画家のアトリエ」
栄光のオランダ・フランドル絵画展

ウィーン美術史美術館所蔵
ルーベンス
レンブラント
ファン・ダイク

【会期・会場】
2004年4月15日～7月4日
東京都美術館

2004年7月17日～10月11日
神戸市立博物館

オランダ・フランドル絵画

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusisha.co.jp

フェルメール デルフトの眺望
アンソニー・ベイリー/木下哲夫訳
デルフトを舞台に、レンブラントら同時代の画家、大家族の群像を織り上げ、神話に包まれた巨匠に肉薄する。フェルメール評伝の決定版!
定価2940円(本体2800円)

昔の巨匠たち
ベルギーとオランダの絵画
ウジェーヌ・フロマンタン/杉本秀太郎訳
ファン・エイク、ルーベンス、レンブラントなど数十人をトボスの花として見事に定着させた、「絵画を論じた文学」の先駆的名著。
定価3975円(本体3786円)

日常礼讃
フェルメールの時代のオランダ風俗画
ツヴェタン・トドロフ/塚本昌則訳
日常生活の情景が独立した主題となった17世紀のオランダ絵画の「表象」を分析し、「風俗画」という新しいジャンルの誕生とその後の展開をたどる。
定価2625円(本体2500円)

個の礼讃
ルネサンス期フランドルの肖像画
ツヴェタン・トドロフ/岡田温司・大塚真子訳
画家と顧客たちが生きていた社会的文脈を再構成しながら、肖像画のなかに美の概念の変貌を探る。カンパンとファン・エイクの章は評伝としても秀逸
定価3045円(本体2900円)

チューリップ熱
デボラ・モガー/立石光子訳
繁栄を誇る17世紀アムステルダムに燃えあがる豪商の若妻と貧しい画家の不倫の炎。当時の名画を多数挿入する独創的な形式で小説の面白さを極めた傑作。
定価2310円(本体2200円)

言語帝国主義に警鐘を鳴らす

「絶滅していく言語を救うためにことばの死とその再生」

クロード・アジェージュ [著]



「あなたはこの恐るべき事実を目を向けたことがあるだろうか。そう、平均して毎年約二五の言語が死んでいくこと、せめてこのことだけでも知っているだろうか」(本書「序文」より)。

世界にはおよそ五千にも及ぶ言語が存在する。だが、現在のグローバル化の過程による均質化の過程がこのまま続くならば、二十一世紀の末には、その半数が絶滅しているだろう。計算すれば二週間にひとつの言語が死んでいくことになる。言語の多様性がそこが人間文化のかけがえのない宝でありながら、それが徐々に失われていく事態を前に、著者は考察をめぐらす。

「言語帝国主義」に警鐘を鳴らし、従来の構造主義や生成文法などでは解決しきれない「言語をめぐる現象」を果敢に解き明かそうとする。コレージュ・ド・フランス教授による画期的な論考。生彩ある筆致で書かれ、読み物としての魅力も兼ね備えている。また、本書の白眉とも言える第十章は古代から現代までのヘブライ語の歴史を簡潔に紹介したもので、おそらく、現在日本語で読みうる唯一のものであり、ヘブライ語を見事に再生させたユダヤ人、ベン・イェフダへの熱烈なオマージュにもなっている。

「奥72」 「アウグストゥスの世紀」 「ヒルケリマル」 「奥73」 「物語論」 「プロップから」 「ジャン・ミシェル・アタン」 本書は、暗殺されたカエサルを踏まえないように、彼が慎重に足固めをし、元首政を完成させる過程を、同時代の政治・文学・美術と関連づけながら紹介する。平民の政治活動を制約する一方で、劇場などの公共施設を建造して別の楽しみを与えたり、詩人たちを利用して人心を掌握したりする彼の巧みさが描かれている。フランスで「最後のローマ人」と言われた碩学による、比類なき研究書。

北野徹訳 新書判 一八四頁 定価九九九円(本体九五二円) 本書は、暗殺されたカエサルの轍を踏まえないように、彼が慎重に足固めをし、元首政を完成させる過程を、同時代の政治・文学・美術と関連づけながら紹介する。平民の政治活動を制約する一方で、劇場などの公共施設を建造して別の楽しみを与えたり、詩人たちを利用して人心を掌握したりする彼の巧みさが描かれている。フランスで「最後のローマ人」と言われた碩学による、比類なき研究書。

末松壽 佐藤正年訳 新書判 一七〇頁 定価九九九円(本体九五二円) 3月下旬発売

「フランス語の小径 たのしい意味世界への誘い」 泉邦寿 [著]

日本の幽霊は柳の下に「出」ますが、フランスではle revenant(戻った人)と言い、あの世から「戻って」きます。この違いはなんでしょう? ことばの裏側に隠れた世界を想像しながら外国語を学べば楽しさは倍増。「壺のはなし」「森と林」「プロヴァンスのサソリ」など、日常の素材から紡ぎ出される話題は、語源、意味、用法をめぐって連想の赴くままに広がります。教科書でおなじみのあの単語も、思いがけない顔をみせるかもしれません。 四六判 214頁 定価2100円(本体2000円)

「仏検対策5級問題集(CD付)」 小倉博史、モーリス・ジャケ、舟杉真一 [編著]

「過去問」の傾向を徹底分析、出題形式を追いながら「学習のポイント」で文法の基本を整理、「練習」で実戦力を身に付け、仏検突破の力を養います。豊富な聞き取り問題で耳を鍛え、実戦さながらの「模擬試験」で仕上げは万全。この1冊で仏検の扉が開きます。「過去問」「練習」には解答と全訳、巻末には5級対策単語集付き。 A5判 120頁 定価1890円(本体1800円) 3月下旬発売

CD エクスプレス ベストセラーの入門シリーズ《エクスプレス》にCDが付いた! 速く着実に「読み・書き・話す」ための基礎がマスターできると大好評。語学の白水社が贈る、入門書の決定版!

- 「CDエクスプレス 上海語(CD付)」 榎本英雄、范晓 [著] A5判 147頁 定価2310円(本体2200円)
- 「CDエクスプレス 広東語(CD付)」 千島英一 [著] A5判 145頁 定価2520円(本体2400円)
- 「CDエクスプレス チベット語(CD付)」 星実千代 [著] A5判 170頁 定価3150円(本体3000円)

文庫クセシユ

編集者

長い間「白水社の本棚」編集部の一員として読者の皆様へ出版ダイジェストをお送りしてきましたが、本号をもって卒業いたします。 【白水社の本棚】が単なる書籍案内ではなく、読者の皆様と小社との架け橋になるような紙面作りを考慮して、1面・愛書狂・コラムなどは、皆様が興味を抱き、おもしろいとの声をいただけたら、新企画も登場することでしょう。ご期待を! (な)

この年末年始に中国へ行きました。北京や上海などでは大型書店も数軒あり、街のあちこちに新聞や雑誌を売るスタンドが数多く見られます。こういったスタンドは、日本では言えば駅の売店をイメージすればほぼ間違いありませんが、新聞・雑誌オンリーで、菓子や飲み物などは全く置いていません。また店によって置いてある雑誌に多少の差があります。少し前の中国の書籍は紙不足もあり、日本ではざら紙でも呼ぶべき紙質で、白クリーム・黄色・褐色と、一冊の本に数種類の紙が使われています。 【お願】 住所表記が変更になりました。御名前、新住所・旧住所、お届け先を記載しております。本紙のお客さまコードをお知らせください。

本の十字路

先だつて同僚と近くの立飲み屋に行ったら、女将に「あなたがた、お仕事はなんですか」と聞かれた。ときどき連れだつてやつてくる同僚とおぼしき三人、ひとりはお金髪、ひとりはお主頭、もうひとりもノーネクタイでいぶかしく思うのもムリはない。たしかに出版業は外見からは判断しにくいかもしれない。その時代の職業の実態がわかると小説のおもしろさもぐんと増すといふことを実感したのが鹿島

黒田龍之助の 語学書書評



「スペイン語ジェスチャー小辞典」

海外旅行から帰った人に、ことばがどのくらい通じたかを尋ねてみると、よくこんな答えが返ってくる。「いや、あんまり通じなかったけど、あとは身振り手振りでなんとかしましたね」 そんな簡単にナントカなるのだろうか? 身振り手振り、すなわちジェスチャーは世界で共通のものばかりではないはずだ……と、かくコミニケーションにおいて、ジェスチャーは言語そのものについて大事なものである。 『スペイン語ジェスチャー小辞典』ではさまざまな動作が項目別にイラスト付で紹介され、さらに意味や解説が続く。その豊富な例文をどんどん覚えていけば、スペイン語学習者は実力が必ずアップすることだろう。 ところが、わたしはスペイン語を勉強したことがない。勉強したことがないので、スペイン語圏のことも口々に知らない。でもスペイン語圏はものすごく広い。世界の言語地図のようなものを眺めていると、ラテンアメリカはほとんどがスペイン語色に塗られているけど、それを均質的なものと捉えていいのだろうか? と疑問に思ふ。スペイン語のよくてできる同僚に聞いてみたら、やっぱり地域によってことばもいろいろ違うという。だったらそのジェスチャーだって全部同じにはならないんじゃないか。

「スペイン語ジェスチャー小辞典」

スペイン語圏の基本的な身ぶり約130について解説した辞典。身ぶりが実際に使われている場面も紹介。今まで見過ごしてきた手の動き、顔の表情などにどんな意味があったのか理解できる。 高垣敏博、上田博人 E・マルティネル M・J・ヘラベル 著 B小型 / 240頁 定価2520円(本体2400円)